時事新報

東京 明治十七年五月卅一日 土曜日 第六百七十三號 日曜日休刊 定價金三錢

公報

○海軍省達丙第八十九號 海軍一般

東海鎮守府所管海門筑紫兩艦之儀自今中艦隊司令官ノ麾下ニ屬セシム此旨相達候事

明治十七年五月三十日 海軍卿 川村純義

○司法省達丙第一號

大審院 裁判所 警視廳 府縣 東京府ヲ除ク 憲兵本部

犯罪證據物トシテ戶長役場備置ノ書類ヲ差押フル儀ニ付甲號福井縣上申ニ對シ乙號ノ通及指令候條爾後戶籍帳等ノ差押ニ付テハ右ノ手續ニ依リ取扱フ可キ儀ト心得可シ此旨相達候事

明治十七年五月三十日 司法卿 山田顯義

甲號

裁判所ニ於テ犯罪證據物トシテ戶長役場備置ノ要書差押ヘタル節還付方ノ儀ニ付上申

犯罪證據物トシテ裁判所ニ於テ戶長役場備置ノ戶籍帳又ハ土地建物船舶賣買讓渡質入書入奧書割印簿等ヲ差押ヘ數十日間還付セサルヿアリ然ルニ戶長役場ニ於テハ部下ノ人民生死送入籍其他ノ異動加除ヲ要シ又ハ陸續公證ヲ請ヒ就中質入書入契約ノ如キ義務消滅ニ據リ公證取消ノ儀申出ル者アルモ本簿ヘ照較消印スル能ハサルヲ以テ其旨ヲ具ヘ簿冊下戾方裁判所ヘ照會スルモ某事件ニ付差押ヘタル證據物ナル故一件落着迄還付シ難キ旨回答有之取扱上頗ル差支候趣ヲ以テ伺出候向アリ右ハ犯罪證據物トシテ差押ヲ要スルハ其一部分ニ止ルヘクシテ而シテ該簿冊ニ登載セル其他ノ事件全体ニ關シ行政上取扱ニ支障ヲ來シ不都合不尠就テハ斯場合ニ於テハ其必要ノ廉ハ裁判所ニ於テ謄寫シ本書加除スルヲ得サル樣掛紙契印等ヲ爲シ而シテ簿冊ハ直ニ還付スヘク樣致度御詮議ノ上何分ノ御指揮相成度此段上申候也

明治十七年一月二十九日 福井縣令 石黑務

内務卿 山縣有朋殿

司法卿 山田顯義殿

乙號

書面上申之趣聞屆候尤裁判所ニ於テ謄寫セシ該書ヘハ戶長之レニ調印スヘシ若シ其謄寫ニ拘ハル內ニ加除等ヲ要スル時ハ其都度裁判所ノ許否ヲ得ヘキ儀ト可心得事

明治十七年五月二十八日

賞勳

○明治十七年四月廿二日

敍勳八等賜白色桐葉章

仝	步兵曹長	三宅重忠
仝	仝	川崎高信
仝	仝	江川盛章
仝	會計一等書記	太田春秀
仝	仝	橋本鐵之助
仝	步兵軍曹	清瀬義敞
仝	仝	齋川忠雄
仝	仝	小林重幸
仝	仝	市川義次

時事新報

著書、新聞紙及ビ政府ノ效力

各自ノ思想ヲ文字ニ寫シテ之ヲ衆人ニ示スノ方法ハ固ヨリ一ニシテ足ラズト雖ドモ著書新聞紙ノ二者ハ就中最モ著シキモノナラン著書新聞紙其效二アルニ非ズト雖ドモ稍其趣ヲ異ニスル所アリ蓋シ新聞紙ハ時ニ居テ時ヲ論ルモノナリ直接目前ノ利害ヲ說クモノナリ一時ノ眼ヲ以テ一時ノ事ヲ抑揚褒貶スルモノナリ新聞紙ノ所論ハ新ク時事ニ切ニシテ且同一時ニ幾千萬ノ眼ニ觸ルヽガ故ニ讀者ヲ感セシムルヿモ亦頗ル緊急ニシテ一欄ノ短文モ全社會ノ人ヲシテ喜笑怒罵セシムルヿヲ得ベシト雖ドモ論ト事ト皆ナ一時ニ限ルガ故ニ時過クレバ感觸モ亦漸ク烟散シテ永ク其痕跡ヲ留ムルヿナシ故ニ新聞ノ效驗ハ人心ニ感スルヿ速ナリト雖ドモ之レニ入ルヿ淺カラザルヲ得ズ著書ニ至テハ之ニ異ナリ著書ハ其所言長日月間ニ涉ルガ故ニ考證ハ極メテ精密ナランヿヲ要シ文字ハ極メテ妥當ナランヿヲ求メ片言隻辭モ亦之ヲ苟モセズ之ヲ彼ノ立談ノ頃ニ起草シテ時ヲ刻シテ脫稿スルモノニ比スレバ固ヨリ同日ノ談ニ非ズ唯其所言必ズシモ時事ニ切ナラザルガ故ニ之ヲ朗讀シテ快ヲ一時ニ取ルヿヲ得ズト雖ドモ讀者モ亦豫メ覺悟シテ輕々ニ之ヲ看過セズ叮嚀反覆眼、紙背ニ徹シテ著者ノ深意ノ在ル所ヲ發明スルヿヲ勉ムルガ故ニ一旦入心ニ深銘スレバ爲メニ其畢生ノ心事ヲモ左右スルヿヲ得ン左レバ著書ノ效驗ハ人心ニ感スルヿ新聞紙ヨリモ遲シト雖ドモ其心底ニ根入スルノ深キハ新聞紙ノ企及スル所ニ非ザルナリ

又政府ノ性質ハ如何ナルモノゾト尋ヌルニ社會中ノ最有力者ニシテ朝ニ一令ヲ發シテ萬人喜ビ夕ニ一命ヲ下タシテ全國恐ル、文武刑政百般ノ事務コレヲ抑揚スルノ機ハ皆其掌中ニ在テ存セリ一擧一動自由自在ニシテ心ニ得テ手ニ施シ得テ他ノ掣肘ヲ受ルヿナシ其效力ノ活潑迅速ナルハ固ヨリ新聞紙ノ及ブ所ニ非ズ著書ノ如キハ比較スルニモ足ラザル程ノモノナリト雖ドモ又細カニ其裏面ヨリ一方ノ實相ヲ覗ヘバ或ハ然ラザルモノアリ蓋シ政府ノ命令ハヨク人ノ窮要ヲ制スト雖ドモ是レ唯命令ヲ發布シタルノ際ニ止マリテ之ヲ履スルヿ能ハザルガ故ニ天下ノ人心其命令ニ從フノ後自然ニ習慣ヲ成ス片ハ命令ニ從ヒナガラ人心ハ恰モ自動ノ姿ニ變シテ却テ政府ノ力ノ所在ヲ忘ルヽガ如キノ事相ヲ呈スルヿアリ左レバ著書ト新聞紙ト政府ト三者各其人心ヲ動カスノ勢力ニ就テ品評ヲ下ダス片ハ政府ノ力ハ活潑迅速ニシテ外形ニ見ル可シト雖ドモ其形ニ慣レテ心ニ忘レラルヽ弱點ナキヲ得ズ

既ニ前段ニ陳述セシ如ク新聞紙ハ人心ヲ感セシムルヿ淺シト雖ドモ之ヲ動カスヿ緊急ナリ著書ハ之ヲ動カスヿ遲緩ナリト雖ドモ其人心ニ銘スルヤ甚ダ深シ故ニ著書新聞紙ハ直接ニ人事ヲ動カシテ自由自在ニ之ヲ支配スルノ力ニ於テハ固ヨリ政府ニ比較スルニ足ラズト雖ドモ不文ノ人ノ想像スルヨリモ其力案外ニ强大ナルガ如シ不文ノ人ノ習トシテ動モスレバ著書新聞紙ヲ無力視シ著書能ク言ヒ新聞紙能ク論ズト雖ドモ畢竟空言徒論ノミ抔ト思惟スルモノナキニ非ザレドモ著書新聞紙ハ人心ヲ動カスノ點ニ於テ之ヲ屢スルノ利益アレバ決シテ無力視スルヿヲ得ズ凡ソ人心ヲ動カスハ之ヲ屢スルニ若カズ試ニ彼ノ頑固一偏ノ守錢奴ヲ見ヨ人アリテ金ヲ借ランヿスレバ彼レ常ニ之ヲ力拒シテ容易ニ其求ニ應セズト雖ドモ再三懇請手ヲ換ヘ品ヲ換ヘ情實ヲ陳シテ已マザレバ遂ニ斷ク其請ヲ容レテ爲メニ括囊ヲ緒クヿアルニ非ズヤ又彼ノ血氣ノ少年ガ娼妓ニ對シ[illegible]ヲ談シ夜[illegible]等ノ來歷ヲ語リテ互ニ一興ヲ催フスノ際次第ニ之ヲ欽羨シテ次第ニ熱氣ヲ催フスハ己レモ亦奮テ襲擧ノ別ニ加ハランヿト發心シ或ハ具慶ノ身トシテ生涯ニ一度ハ父母ノ讎ヲ酬ルノ愉快ヲ得ンモノヲト扼腕スルガ如キ奇談アルニ非ズヤ又更ニ近ク譬ヲ取レバ男女ノ愛情ハ天然ニ成ルモノト爲シ父母モコレヲ强フルヿ能ハズ朋友モ之ヲ助クルヿ能ハズ其人々胸臆ノ最深最奧ノ部分ヨリ出テ、互ニ相投合シ始メテ愛情ノ本色ヲ成スモノナリトハ古今世人ノ信シテ疑ハザル所ニシテ或ハ宿世ノ緣ト唱ヘ或ハ神佛ノ引合セト稱シ或ハ又婚禮ノ席ノ挨拶ナドニハ「不思議の緣でござる」ト云フヲ以テ社會ノ通語ト爲スニ至リタルガ如キ總テ男女ノ愛情ハ自力他力ヲ論セズ人力ノ支配外ニ在ルモノナリト認メタルガ如シ然ルニ男女交際ノ實況ヲ顧ミレバ彼ノ愛情ナルモノモ左バカリ神變不思議ノ靈能ニアラズシテ一個普通ノ凡情タルニ過キズトノ疑ナキニアラズ男女始メテ相逢フ固ヨリ路人ノ情ノミ再三再四ニシテ漸ク相知リ相知ルニ隨テ漸ク又愛情ノ切ナルヲ發エ遂ニ所謂ル不思議ノ天緣ヲ成シ比翼連理ノ眞情ヲ成スニ至ルヿ古今普通ノ大法ナルガ如シ蓋シ一言以テ之ヲ蔽ヘバ男女ノ愛ハ之ヲ屢スルニ成ルト云フテ可ナルモノアラン以上二三ノ例ノ如キ孰レモ皆之ヲ屢シテ人心ヲ動カスノ實證ニシテ其效力甚タ大ナリト申ス可シ然ルニ著書新聞紙ハ學者ノ心事ヲ文字ニ表シテ之ヲ天下公衆ニ示シ同一ノ主旨ニテモ十百千回種々ノ點ヨリ之ヲ說キテ之ヲ屢スルヿヲ得ルガ故ニ公衆モ漸ク之ヲ翫味シ自カラ之ヲ信シ人ニモ語リ口耳相授シテ不知不識ノ際ニ社會ノ輿論ヲ成スニ至ル可シ輿論即チ天下衆庶ノ氣風ニシテ著書新聞紙ハ直ニ人ノ形體ヲ左右スルノ力ナキモ能ク人ノ心ヲ制スルモノト云テ可ナリ

前陳ノ如ク政府ノ實力ノ活潑廣大ナルヿハ今更之ヲ喋々スルヲ待タズト雖ドモ其中亦自カラ輿論ニ順應セザル可ラザルモノアリ而シテ其輿論ナルモノハ決シテ偶然ニ起ルニ非ズ蓋シ世上百般ノ事ハ起ルノ日ニ起ルニ非ズシテ因テ起ル所アリ淺近ノ例ヲ取リテ之ヲ云ハヽ近時我國ニテ人力車ノ行ハレタルガ如キモ其行ハルヽニ先テ嘗ニ行ハルベキノ用意アリシヿ疑ナシ又鐵道ノ敷設ノ如キモ其敷設ニ先テ個々樣々ノ議論アリ其議論漸ク一般ノ輿論ト爲リテ始メテ鐵道ノ實行ヲ見ルニ至タルナリ故ニ鐵道人力車ノ成リシハ既ニ成リシ今日ニ成リシニ非ズシテ因テ成リシ所アリト云ハザル可ラズ左レバ彼ノ輿論ノ如キモ起ルノ日ニ起ルニ非ズシテ遠ク其原因ヲ尋ヌレバ著書之ヲ造リテ新聞紙之ヲ導キタルノ結果ナランノミ而シテ其既ニ輿論ト爲ルニ及ンデハ政府スラ倘且ツ之ニ順應セザル可ラザルノ勢ヲ成スガ故ニ著書新聞紙ハ固ヨリ政府ノ權勢ニ比ス可ラズト雖ドモ究竟其效力ノ大ナルハ不文ノ人ノ夢想ニモ及ハザル所ノモノアルナリ

著書新聞紙ノ效力斯ク[illegible]ニ大ナリトスレバ其[illegible]ニ從フモノモ亦之ヲ覺悟シテ其效力ヲ濫用スルヿナク自ラ[illegible]害ヲ興[illegible]論ヲ造リ其輿論ノ實際ニ行ハルヽニ及ンデ却テ其失策ヲ悔ユルガ如キ輕擧ナカランヿ我輩ノ希望スル所ナリ

雜報

○參內 從二位中山慶子には昨三十日午前十時青山御所へ參內に成り皇太后宮へ謁見を仰付られ午餐を賜り黄昏頃退出しられりと

○官廳彙報 兼ねて上京中なる名古屋控訴裁判所長中島判事は今三十一日歸縣する由○工兵第一方面提理工兵中佐黒田四方藏氏と所轄內巡回のため去る廿八日出發し○參謀本部長傳令使步兵少佐田島應親氏は去る廿六日參謀本部編纂課長に兼補せられたり○曩に三重縣へ出張を命せられたる大藏少書記官葦原清風氏は昨日出發し、曩に長崎縣へ出張しらる同權少書記官山本豊躬氏と一昨廿九日歸京し、曩に長野縣へ出張しらる大藏省准奏任御用掛柳田實敏氏は去る廿九日歸京したり

○主稅局 曾て大藏省構內會計局の裏手に新築中なる二階造りの新館ハ落成の上にて銀行局、同講習所事務所等を移す都合の所今度主稅局の設備ありたるに付更に該新館へと同局を移す事に決定せし由にて昨日ハ鄕主稅官長を始め同局奏任官數名工事中なる該館を巡視しられ右に付會出來をも急ぎ遲くも來六月中旬迄に落成すべき旨を職方一同へ通したるよし尤も銀行局等は目下の主稅局跡へ移轉し兩局交換に成るべきの都合なるよしに聞けり

○醫官巡視 陸軍病院長軍醫監緒方惟準、一等軍醫正石阪惟寬、二等軍醫正長瀬時衡の三氏には一昨廿九日[illegible]判官を從へ府下各兵營の病室を巡視しられり

○軍艦出入港 雷電艦ハ本月十一日下ノ關を拔錨し[illegible]附及長州江崎灣を經て同十五日午後一時三十五分豐州三津ケ關へ拔錨し天城艦は去る二十八日午前八時上海へ向ひ長崎を發航し孟春艦は同日午前十時朝鮮國釜山浦へ着したり

○行軍 東京鎮臺山砲兵第一大隊ハ近日の內武州多摩、高麗、入間の諸郡を經過し野地放列及び諸大幕舍を用ひ兵員食料支給法等經驗のため日數六日間行軍を施行する筈なり

○軍馬購求 曩に軍馬購求の爲め三陸地方へ出張せし騎兵大尉が購求せし軍馬三十頭は昨日軍馬局へ到着せり

○射的 陸軍教導團長[illegible]大佐の發議にて[illegible]に於て同團生徒の射的會を開く由

○水雷局卒業生 過般海軍水雷局講習所に於て卒業せし生徒十六名は去廿八日孟春艦其他へ乘組を命せられたり

○書籍編纂 海軍省御雇英人[illegible]氏にはアームストロング砲圖解、同說明書を、[illegible]氏には日本海軍[illegible]水雷頒論といふを又水路局次長富岡海軍大尉にも水雷[illegible]いふを孰れも其編纂を[illegible]たり

○佛國海軍中將來朝 曾て[illegible]へ出張[illegible]しエラスペス氏は[illegible]事件已に完結[illegible]